

⑤ 舞岡地区センター建設に向けての多様な試み

1 基本設計業者に地域特性を事前レクチャー

舞岡地区センターの基本設計に取り組める条件が整い、建設委員会を平成八年一月に立ち上げる準備が始まったが、区は、十分に議論する時間的な余裕がなくても短期間に地域特性を反映した地区センターづくりをする必要に迫られた。まず、なによりも設計業者に地域を知ってもらうことが重要だと考え、十一月中旬、市民・建築局の担当者と共に設計業者を案内し、舞岡地区の特性及び設計上のポイントを理解してもらう機会を設けた。

2 地域ニーズの幅広い吸い上げを図った!

建設委員会で活発な議論をしてもらうためには、限られた時間内ではあるができるだけ地域ニーズを把握し、議論の素材として提供しようとして、舞岡・柏尾地域で活動している三十二団体を対象にアンケート調査実施を決定。平成八年一月二十二日から二月五日までに郵送で実施され、活動内容、地区センターの利用予定、施設利用についての意見を聞いた。また、通常、建設委員会での審議内容は

「建設委員会だより」で地域住民に知らされるが、今回はその内容を区役所の責任の下、迅速に配布、周知する必要があったことから、「建設委員会事務局だより」として発行されている。

3 建設委員三名を公募

建設委員会の構成は、連合町内会長・町内会自治会長をはじめ、民生委員、老人会、体育指導員、青少年指導員、子供会、PTAなどの代表がなる場合が多い。しかし、これだけでは実際の利用者の意見反映が十分とはいえないので、今回は、地域でまちづくり活動を担う二つのグループ（舞岡ふるさと村推進協議会、舞岡公園を育む会）の代表を加えることと、利用者意見の反映策として三名を公募することの二つが実施に移され、建設委員会は二十名以内のメンバーに限定し活発な議論を進めることが目指された。十二月二十五日を申し込み期限とする募集案内が町内会回覧され、六名が応募、選考委員は活動分野・活動実績・地域性などから三名を選定した。

4 会議の進め方次第で実のある議論ができる

通常、建設委員会の会議は、コの字形にセツトされたテーブルに座り、連合町内会長が務める座長が取りしきる形で進行する。これだと時間の制約や遠慮などから全員が活発に意見を述べ合うことができず、参加者の中には、不満を残して物事が決まる場合がある。

今回は、委員に十分な情報を提供し、議論を尽くしてそれなりの納得が得られるような会議の進め方が重要との認識から、グループ討議やその中のポストイット出しといった会議の進め方を工夫し、できるだけ多くの意見を引き出すことに成功した。

実質的に十分な討議をしてほしいと事務局が考えている点については、それぞれの目的や進め方が説明され、グループ討議などが初めての人でも参加しやすいような工夫がこらされた。

5 ワークショップの実施

時間がない中での建設委員会開催なのでワークショップで出た意見や要望の反映が難しいのではとの意見もあったが、区役所としては、むしろ「時間がないからこそ十分な討議素材を提供すべき」と考え、平成八年三月十七日、舞岡地区センターの建物・広場などの設計に

データ

事業主体	戸塚区役所区政推進課
関係部局	市民局地域施設課、建設局庁舎施設課
事業概要	舞岡地区センター（仮称）建設事業
施設概要	所在地/戸塚区舞岡町3020他 敷地面積/約3,600㎡ 延床面積/約1,700㎡
事業期間	平成7年度/用地取得、基本設計 平成8年度/実施設計、着工 平成9年度/完成予定
参加形態	設計者の舞岡地域案内、建設委員会委員の公募性導入、建設委員会での会議方法の工夫、連携したワークショップ開催、まちづくり検討会の準備活動との連携

多くの意見を引き出すには、グループ討議やポストイット出しが有効



ワークショップの経過や提案作品は委員会の議論素材に



対する幅広い提案を行うワークショップを実施した。区では、地域の人々との顔の見えつき合いが普段からあり、ワークショップへの地域の関心は高いと考えていたとのこと。当日の雨模様にも関わらず、四十名近くが参加、参加者の多くは「皆さんのやる気と熱気で楽しかった」「またこのようなイベントがあれば参加したい」という感想を述べている。

ワークショップは、午前「まち探検ウォーキングとガリバーマップづくり」、午後「五感で感じる形容詞ゲーム、こんな地区センターにしたい」「建物・広場などを楽しくデザインする。設計コンペゲーム」と、多彩だが徐々に議論が深められるように組み立てられた。探検ウォーキングは三コースで実施され、このグループ毎にガリバーマップづくりが行われた。形容詞ゲームでは、いずれのグループも「柔らかい」「素朴な」「自然な」が舞岡地区センターのキーワードとして選ばれ、設計コンペでは七作品が提案され、参加者投票で三作品が優秀賞に選ばれた。この結果は、三月二十一日の第三回建設委員会に討議素材として報告され、住民の熱い思いを感じながら議論を深めるのに役立ったようだ。

6 地域まちづくりを担う人の掘り起こしと協働

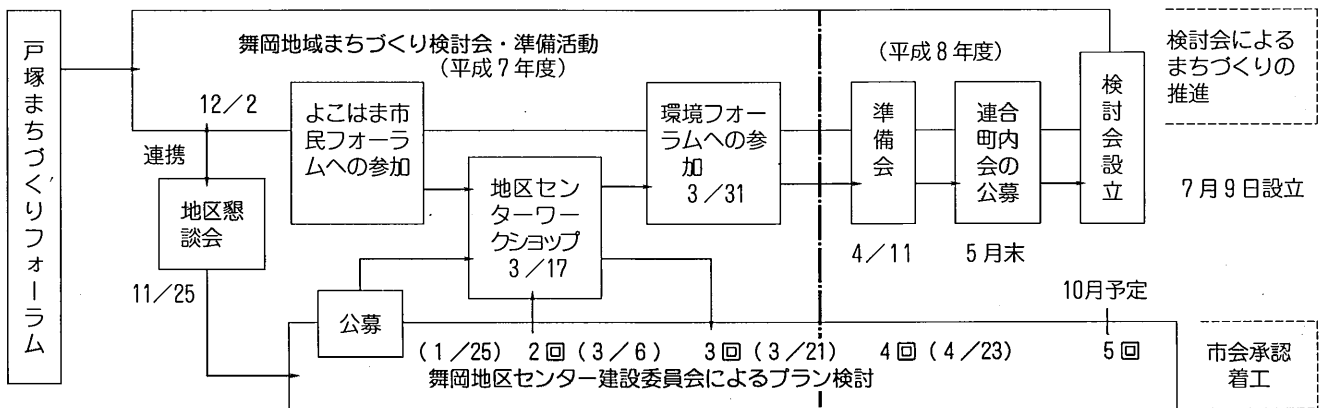
ワークショップへの参加呼びかけは、町内会を通して、一月末配布の「建設委員会事務局だより」や二月末配布の「ワークショップのご案内」で行われたが、別途、建設委員

(当日五名参加)をはじめ、まちづくり検討会準備会メンバーや公募からもれた三名に呼びかけた。これらの参加予定者には、準備段階からスタッフとしての役割をお願いし、最終の準備会を三月十一日に行っている。

ワークショップの最後には、区役所から舞岡地域の継続的なまちづくりへの参加が呼びかけられ、当面「環境フォーラムとつか」(三月三十一日開催)で舞岡のまちづくりをテーマとするワークショップがあることがPRされた。「環境フォーラムとつか」では、地区センターワークショップの参加者も五名程参加し、源流環境資源マップづくりや舞岡地域イベント人気コンテストなどが行われ、今後のまちづくりの進め方に工夫が必要なことが確認された。一連の参加者の多くからは、「まちづくりに興味を持つ人が結構いることを知った」「他人とのつながりができてよかった」などの感想がもたらされている。

7 箱物づくりも地域コミュニティづくり

単なるひとつの施設建設であっても、区役所にとっては、地域住民が快適に暮らせる地域コミュニティづくりの一環として展開できるかどうか問題である。つまり、舞岡地区センター建設委員会に関連して試みられたように、その地域で実施されている事業や施策を相互に連動させ、地域まちづくりのプロセスとしてコーディネートしながら施設建設事業を実施することが重要なのである。



設計コンペゲーム、参加者投票で優秀賞を選定



まち歩きグループ毎に、ガリバーマップを作成



雨の中、建設予定地の見学とまち歩きを楽しむ

